

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

持続性選択 H₁ 受容体拮抗剤

日本薬局方 エバスタチン錠

エバスタチン錠 5mg/10mg「トローワ」

EBASTINE TABLETS 5mg “TOWA” /TABLETS 10mg “TOWA”

製 品 名	エバスタチン錠 5mg「トローワ」	エバスタチン錠 10mg「トローワ」
剤 形	錠剤(フィルムコーティング錠)	
製 剤 の 規 制 区 分	該当しない	
規 格 ・ 含 量	1 錠中 日局 エバスタチン 5mg 含有	1 錠中 日局 エバスタチン 10mg 含有
一 般 名	和 名：エバスタチン (JAN) 洋 名：Ebastine (JAN、INN)	
製 造 販 売 承 認 年 月 日	2008 年 3 月 14 日	
薬 価 基 準 収 載 年 月 日	2008 年 7 月 4 日	
発 売 年 月 日	2008 年 7 月 4 日	
開 発 ・ 製 造 販 売 (輸 入) ・ 提 携 ・ 販 売 会 社 名	製造販売元：東和薬品株式会社	
医 薬 情 報 担 当 者 の 連 絡 先	電話番号： FAX：	
問 い 合 わ せ 窓 口	東和薬品株式会社 学術部 DI センター(24 時間受付対応)  0120-108-932 TEL 06-6900-9108 FAX 06-6908-5797 http://www.towayakuhin.co.jp/forstaff	

本 IF は 2016 年 4 月改訂(第 7 版、副作用の項)の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 — 日本病院薬剤師会 —

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IF と略す)の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を保管する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF 記載要領 2013」と略す)により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	25
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	25
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	25
II. 名称に関する項目	2	3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	25
1. 販売名	2	4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	25
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	25
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	25
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	25
5. 化学名(命名法)	3	8. 副作用	26
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	9. 高齢者への投与	27
7. CAS登録番号	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	27
III. 有効成分に関する項目	4	11. 小児等への投与	27
1. 物理化学的性質	4	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	28
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4	13. 過量投与	28
3. 有効成分の確認試験法	4	14. 適用上の注意	28
4. 有効成分の定量法	5	15. その他の注意	28
IV. 製剤に関する項目	6	16. その他	28
1. 剤形	6	IX. 非臨床試験に関する項目	29
2. 製剤の組成	6	1. 薬理試験	29
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	7	2. 毒性試験	29
4. 製剤の各種条件下における安定性	7	X. 管理的事項に関する項目	30
5. 調製法及び溶解後の安定性	10	1. 規制区分	30
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	10	2. 有効期間又は使用期限	30
7. 溶出性	11	3. 貯法・保存条件	30
8. 生物学的試験法	16	4. 薬剤取扱い上の注意点	30
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	16	5. 承認条件等	30
10. 製剤中の有効成分の定量法	16	6. 包装	30
11. 力価	16	7. 容器の材質	31
12. 混入する可能性のある夾雑物	16	8. 同一成分・同効薬	31
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	16	9. 国際誕生年月日	31
14. その他	16	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	31
V. 治療に関する項目	17	11. 薬価基準収載年月日	31
1. 効能・効果	17	12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	31
2. 用法・用量	17	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	31
3. 臨床成績	17	14. 再審査期間	31
VI. 薬効薬理に関する項目	19	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	31
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	19	16. 各種コード	32
2. 薬理作用	19	17. 保険給付上の注意	32
VII. 薬物動態に関する項目	20	XI. 文 献	33
1. 血中濃度の推移・測定法	20	1. 引用文献	33
2. 薬物速度論的パラメータ	22	2. その他の参考文献	33
3. 吸収	23	XII. 参考資料	33
4. 分布	23	1. 主な外国での発売状況	33
5. 代謝	23	2. 海外における臨床支援情報	33
6. 排泄	24	XIII. 備 考	33
7. トランスポーターに関する情報	24	その他の関連資料	33
8. 透析等による除去率	24		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

エバスチン錠は持続性選択 H₁ 受容体拮抗剤であり、本邦では 1996 年に上市されている。東和薬品株式会社が後発医薬品として、エバスチン錠 5mg「トーワ」及びエバスチン錠 10mg「トーワ」の開発を 2003 年 7 月より企画し、薬食発第 0331015 号(平成 17 年 3 月 31 日)に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2008 年 3 月にそれぞれ承認を取得、2008 年 7 月に発売した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

臨床的特性

有用性：エバスチン錠 5mg「トーワ」及びエバスチン錠 10mg「トーワ」は、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症、アレルギー性鼻炎に対して、通常、成人には、エバスチンとして 1 回 5～10mg を 1 日 1 回経口投与することにより、有用性が認められている。

安全性：本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用として、眠気、けん怠感、頭痛、めまい、口渇、胃部不快感等が報告されている。〔VIII.

8. (3) その他の副作用の項を参照〕

重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー、肝機能障害、黄疸があらわれることがある。類薬で QT 延長、心室性不整脈(Torsades de pointes を含む)があらわれるとの報告がある。

〔VIII. 8. (2) 重大な副作用と初期症状の項を参照〕

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

エバスチン錠 5mg 「トワ」
エバスチン錠 10mg 「トワ」

(2) 洋名

EBASTINE TABLETS 5mg “TOWA”
EBASTINE TABLETS 10mg “TOWA”

(3) 名称の由来

一般名+剤形+規格(含量)+「トワ」

〔「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成 17 年 9 月 22 日 薬食審査発第 0922001 号)に基づく〕

2. 一般名

(1) 和名(命名法)

エバスチン(JAN)

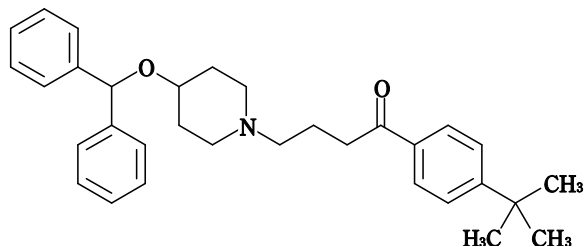
(2) 洋名(命名法)

Ebastine (JAN、INN)

(3) ステム

-astine : 抗ヒスタミン剤

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₃₂H₃₉NO₂

分子量 : 469.66

5. 化学名(命名法)

1-[4-(1,1-Dimethylethyl)phenyl]-4-[4-(diphenylmethoxy)piperidin-1-yl]butan-1-one(IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

7. CAS登録番号

90729-43-4

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。光によって徐々に帯黄白色となる。

(2) 溶解性

溶 媒	1g を溶かすのに要する溶媒量	溶 解 性
酢酸(100)	1mL 以上 10mL 未満	溶けやすい
メタノール	10mL 以上 30mL 未満	やや溶けやすい
エタノール(95)	30mL 以上 100mL 未満	やや溶けにくい
水	10000mL 以上	ほとんど溶けない

(3) 吸 湿 性

該当資料なし

(4) 融点(分解点)・沸点・凝固点

融点：84～87℃

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法







- (1) 1,3-ジニトロベンゼン試液及び水酸化ナトリウム試液による呈色反応
- (2) 紫外可視吸光度測定法
- (3) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)

4. 有効成分の定量法
電位差滴定法

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

製品名		エバスチン錠 5mg「トーワ」			エバスチン錠 10mg「トーワ」		
剤形の区別		錠剤(フィルムコーティング錠)					
性状		白色のフィルムコーティング錠			白色の割線入りのフィルムコーティング錠		
識別コード	本体	Tw733			Tw734		
	包装						
外形		表	裏	側面	表	裏	側面
							
錠径(mm)		6.1			10.1/5.1 (長径/短径)		
厚さ(mm)		2.8			3.2		
質量(mg)		73			125		

(2) 製剤の物性

製品名	エバスチン錠 5mg「トーワ」	エバスチン錠 10mg「トーワ」
硬度	2.7kg 重	53N(5.4kg 重)

(3) 識別コード

(1) 剤形の区別、外観及び性状の項を参照

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

エバスチン錠 5mg「トーワ」

1 錠中 日局 エバスチン 5mg を含有する。

エバスチン錠 10mg「トーワ」

1 錠中 日局 エバスチン 10mg を含有する。

(2) 添加物

使用目的	添加物
賦形剤	乳糖水和物、クロスポビドン、トウモロコシデンプン、結晶セルロース(5mg錠のみ)
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
崩壊剤	低置換度ヒドロキシプロピルセルロース
滑沢剤	ステアリン酸 Mg
コーティング剤	ヒプロメロース、マクロゴール 6000、タルク、酸化チタン

(3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 加速試験

エバスチン錠 5mg 「トーワ」¹⁾

包装形態：PTP 包装し貼り合わせアルミ箔包装した製品

試験条件：40℃、75%RH、3 ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 ヶ月
性状	白色のフィルムコーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
溶出率(%)	94.9~101.1	89.2~98.6
含量(%)	99.4~100.9	99.6~101.1

包装形態：ポリエチレン瓶に入れた製品（乾燥剤入り）

試験条件：40℃、75%RH、3 ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 ヶ月
性状	白色のフィルムコーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
溶出率(%)	94.9~101.1	89.5~103.4
含量(%)	99.4~100.9	99.1~101.6

エバスチン錠 10mg「トーワ」²⁾

包装形態：PTP 包装し貼り合わせアルミ箔包装した製品

試験条件：40℃、75%RH、3 ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 ヶ月
性状	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
溶出率(%)	95.3~99.8	88.5~101.1
含量(%)	98.7~100.1	99.0~100.5

包装形態：ポリエチレン瓶に入れた製品（乾燥剤入り）

試験条件：40℃、75%RH、3 ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 ヶ月
性状	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	同左
確認試験	適合	同左
溶出率(%)	95.3~99.8	89.8~101.9
含量(%)	98.7~100.1	98.9~100.1

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月)の結果、エバスチン錠 5mg「トーワ」及びエバスチン錠 10mg「トーワ」は通常の市場流通下においてそれぞれ 3 年間安定であることが推測された。

(2) 長期保存試験

エバスチン錠 10mg「トーワ」³⁾

包装形態：PTP 包装し貼り合わせアルミ箔包装した製品

試験条件：25℃、60%RH、3 ロット(n=1)

試験項目	開始時	4 年
性状	白色の割線入りのフィルムコーティング錠	同左
溶出率(%)	93.4~97.6	92.6~104.4
含量(%)*	99.4~100.1	96.7~98.4

*n=2 で実施した試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(25℃、相対湿度 60%、4 年)の結果、エバスチン錠 10mg「トーワ」は通常の市場流通下において 4 年間安定であることが確認された。

(3) 無包装状態における安定性

エバスチン錠 5mg 「トーワ」⁴⁾

試験項目	外観	含量	硬度	溶出性
温度 (40℃、3 ヶ月)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
湿度 (25℃、75%RH、3 ヶ月)	変化なし	変化なし	変化あり (規格外)*	変化なし
光 (60 万 lux・hr)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし

* : 2.7kg 重→1.6kg 重に低下(3 ヶ月)に低下

注) 評価は「(社)日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)、平成 11 年 8 月 20 日」の評価基準による。

【硬度】

変化なし	硬度変化が 30%未満
変化あり (規格内)	硬度変化が 30%以上で、硬度が 2.0kg 重以上
変化あり (規格外)	硬度変化が 30%以上で、硬度が 2.0kg 重未満

硬度 2.0kg 重を下回ると、割れ・欠けが起こりやすくなり、取扱いに注意が必要になると考えられる。

エバスチン錠 10mg 「トーワ」⁵⁾

試験項目	外観	含量	硬度	溶出性
温度 (40℃、3 ヶ月)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
湿度 (25℃、75%RH、3 ヶ月)	変化なし	変化なし	変化あり (規格内)*	変化なし
光 (60 万 lux・hr)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし

* : 53N(5.4kg 重)→31N(3.2kg 重、1 ヶ月)、28N(2.9kg 重、3 ヶ月)に低下するが、取扱い上問題とならない程度の変化であった。

注) 評価は「(社)日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)、平成 11 年 8 月 20 日」の評価基準による。

【硬度】

変化なし	硬度変化が 30%未満
変化あり (規格内)	硬度変化が 30%以上で、硬度が 2.0kg 重以上
変化あり (規格外)	硬度変化が 30%以上で、硬度が 2.0kg 重未満

硬度 2.0kg 重を下回ると、割れ・欠けが起こりやすくなり、取扱いに注意が必要になると考えられる。

(4) 分割後の安定性

エバスチン錠 10mg 「トーワ」⁶⁾

包装形態：開放シャーレ

試験条件：25℃、60%RH、遮光保存、1ロット(n=3)

試験項目		開始時	分割直後	1 ヶ月	3 ヶ月
性状	表面	白色	同左	同左	同左
	分割面	—	白色	同左	同左
溶出率(%)*		91.6~93.5	93.0~97.7	93.8~96.7	92.5~94.8
含量(%)		98.3	99.9	100.1	99.7

*：n=1 で実施した試験

包装形態：開放シャーレ

試験条件：25℃、75%RH、遮光保存、1ロット(n=3)

試験項目		開始時	分割直後	1 ヶ月
性状	表面	白色	同左	同左
	分割面	—	白色	同左
溶出率(%)*		91.6~93.5	93.0~97.7	93.9~96.4
含量(%)		98.3	99.9	100.1

*：n=1 で実施した試験

包装形態：ラップフィルムで蓋をしたシャーレ

試験条件：25℃、60%RH、3000lux 散光下、1ロット(n=3)

試験項目		開始時	分割直後	60 万 lux・hr
性状	表面	白色	同左	同左
	分割面	—	白色	同左
溶出率(%)*		91.6~93.5	93.0~97.7	93.8~95.2
含量(%)		98.3	99.9	97.0

*：n=1 で実施した試験

分割後の安定性試験(25℃、60%RH、遮光保存、3 ヶ月、25℃、75%RH、遮光保存、1 ヶ月、25℃、60%RH、3000lux 散光下、60 万 lux・hr)の結果、エバスチン錠 10mg 「トーワ」はそれぞれの試験項目で、ほとんど変化を認めなかった。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当しない

7. 溶出性

(1) 規格及び試験方法^{7) 8)}

エバスチン錠 5mg「トーワ」及びエバスチン錠 10mg「トーワ」は、日本薬局方医薬品各条に定められたエバスチン錠の溶出規格にそれぞれ適合していることが確認されている。

方 法：日局溶出試験法(パドル法)

試験液：溶出試験法第 1 液 900mL

回転数：50rpm

測定法：紫外可視吸光度測定法

規 格：30 分間の溶出率が 75%以上のときは適合とする。

〔出典：日本薬局方医薬品各条〕

(2) 生物学的同等性試験

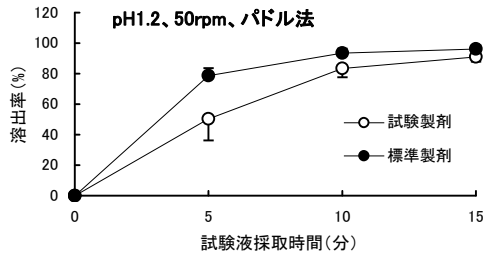
エバスチン錠 5mg 「トーワ」⁹⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(平成13年5月31日 医薬審発第786号)(以下、ガイドライン)に従い溶出試験を行った。

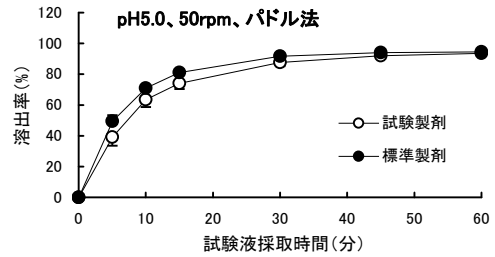
<測定条件>

試験液 : pH1.2、pH5.0、pH6.8、水
 回転数 : 50rpm、100rpm
 試験製剤 : エバスチン錠5mg「トーワ」

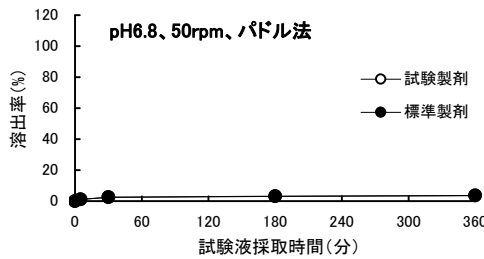
検体数 : n=12
 試験法 : パドル法
 標準製剤 : 錠剤、5mg



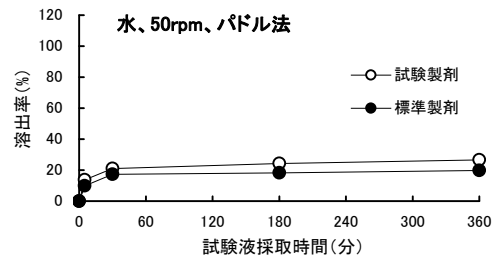
時間(分)	0	5	10	15
試験製剤	0	50.4	83.5	91.1
標準偏差	0	14.16	5.84	3.21
標準製剤	0	78.7	93.6	96.2
標準偏差	0	4.91	2.70	2.42



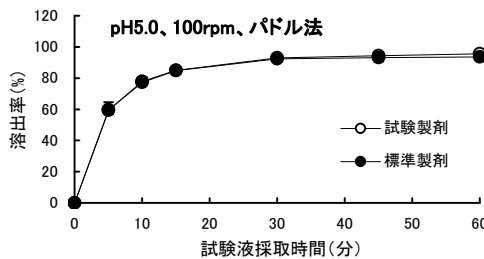
時間(分)	0	5	10	15	30	45	60
試験製剤	0	39.2	63.5	74.2	87.7	92.0	93.7
標準偏差	0	5.66	4.76	3.81	2.45	1.64	1.37
標準製剤	0	49.4	71.0	81.2	91.7	94.1	94.5
標準偏差	0	3.91	2.07	1.51	1.22	1.19	1.34



時間(分)	0	5	30	180	360
試験製剤	0	1.1	2.7	3.2	3.7
標準偏差	0	0.25	0.30	0.14	0.07
標準製剤	0	1.2	2.5	3.1	3.6
標準偏差	0	0.53	0.79	0.82	0.45



時間(分)	0	5	30	180	360
試験製剤	0	13.8	21.1	24.3	26.6
標準偏差	0	2.13	1.25	1.30	1.30
標準製剤	0	9.9	17.4	18.3	19.9
標準偏差	0	1.28	1.82	1.38	1.16



時間(分)	0	5	10	15	30	45	60
試験製剤	0	59.5	77.9	85.1	93.0	94.5	95.7
標準偏差	0	4.97	2.77	1.89	1.12	0.92	1.16
標準製剤	0	59.7	77.3	84.9	92.4	93.2	93.6
標準偏差	0	2.85	1.43	1.47	2.03	2.43	2.31

試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較(パドル法)

試験条件			平均溶出率(%)		平均溶出率の差(%)	f ₂ 関数の値	判定	
回転数(rpm)	試験液	採取時間(分)	試験製剤	標準製剤				
50	pH1.2	10	91.1	96.2	-5.1	65.4	適	
		pH5.0	15	74.2	81.2			適
	30		87.7	91.7				
	45		92.0	94.1				
	pH6.8	5	1.1	1.2	-0.1			適
		360	3.7	3.6	0.1			
	水	5	13.8	9.9	3.9			適
360		26.6	19.9	6.7				
100	pH5.0	15	85.1	84.9	0.2		適	

(n=12)

判定基準

[pH1.2(50rpm)、pH5.0(100rpm)]

標準製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する場合：試験製剤は 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分において試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

[pH5.0(50rpm)]

標準製剤が 15 分～30 分に平均 85%以上溶出する場合：標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f₂関数の値は 45 以上である。

[pH6.8、水(各 50rpm)]

標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間(360分)以内に 85%に達しない場合：標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±a%の範囲にある。a は、溶出率が 50%以上の場合には 15、50%未満の場合には 8 とする。又は f₂関数の値は溶出率が 50%以上の場合には 50 以上、50%未満の場合には 55 以上である。

上記の結果より、溶出条件それぞれについて、ガイドラインの溶出挙動の同等性の判定基準に適合した。

従って、エバスチン錠 5mg「トーワ」と標準製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

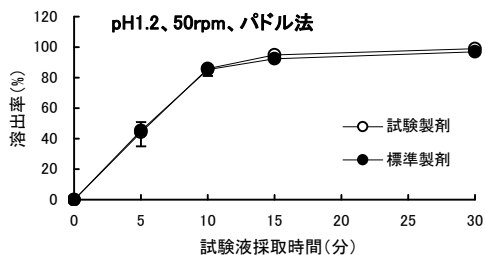
エバステチン錠 10mg 「トーワ」¹⁰⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(平成13年5月31日 医薬審発第786号)(以下、ガイドライン)に従い溶出試験を行った。

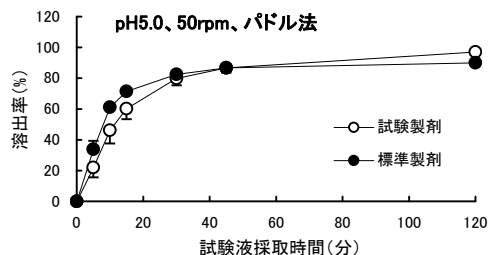
<測定条件>

試験液 : pH1.2、pH5.0、pH6.8、水
 回転数 : 50rpm、100rpm
 試験製剤 : エバステチン錠10mg「トーワ」

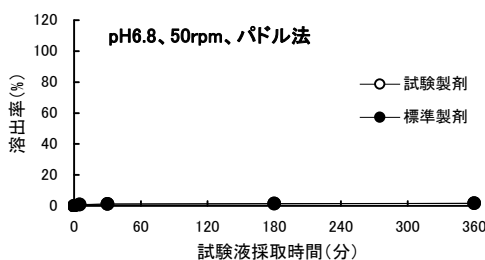
検体数 : n=12
 試験法 : パドル法
 標準製剤 : 錠剤、10mg



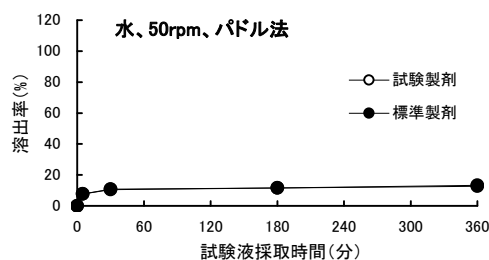
時間(分)	0	5	10	15	30
試験製剤	0	44.2	86.0	94.9	99.0
標準偏差	0	9.20	4.83	2.14	0.82
標準製剤	0	45.3	85.3	92.4	97.0
標準偏差	0	5.63	1.98	1.81	1.61



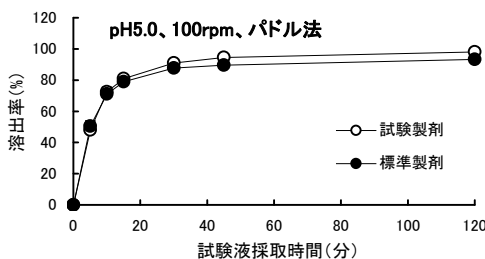
時間(分)	0	5	10	15	30	45	120
試験製剤	0	22.0	46.2	60.2	79.9	86.8	97.0
標準偏差	0	6.43	8.63	6.83	4.55	3.11	1.97
標準製剤	0	33.9	61.2	71.5	82.6	86.7	90.0
標準偏差	0	5.40	1.90	1.54	1.21	0.92	1.17



時間(分)	0	5	30	180	360
試験製剤	0	0.7	1.3	1.5	1.7
標準偏差	0	0.17	0.05	0.06	0.06
標準製剤	0	0.9	1.3	1.4	1.7
標準偏差	0	0.12	0.14	0.09	0.10



時間(分)	0	5	30	180	360
試験製剤	0	7.8	10.5	11.7	13.3
標準偏差	0	1.80	0.67	0.65	0.66
標準製剤	0	7.7	10.8	11.6	12.8
標準偏差	0	0.67	0.59	0.62	0.83



時間(分)	0	5	10	15	30	45	120
試験製剤	0	48.1	72.6	81.0	91.0	94.6	98.1
標準偏差	0	5.72	2.77	1.69	1.43	1.21	2.36
標準製剤	0	50.6	71.1	79.1	87.8	89.7	93.4
標準偏差	0	3.55	0.90	1.03	1.36	1.21	1.37

試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較(パドル法)

試験条件			平均溶出率(%)		平均溶出率の差(%)	f ₂ 関数の値	判定
回転数(rpm)	試験液	採取時間(分)	試験製剤	標準製剤			
50	pH1.2	10	86.0	85.3	0.7	71.6	適
	pH5.0	5	22.0	33.9	-11.9		適
		45	86.8	86.7	0.2		適
	pH6.8	5	0.7	0.9	-0.2		適
		360	1.7	1.7	0		適
	水	5	7.8	7.7	0.1		適
360		13.3	12.8	0.5	適		
100	pH5.0	15	72.6	71.1		71.6	適
		30	91.0	87.8			
		45	94.6	89.7			

(n=12)

判定基準

[pH1.2(50rpm)]

標準製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する場合：試験製剤は 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分において試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

[pH5.0(50rpm)]

標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間(360分)以内において 85%以上となる場合：標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f₂関数の値は 45 以上である。

[pH6.8、水(各 50rpm)]

標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間(360分)以内に 85%に達しない場合：標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±a%の範囲にある。a は、溶出率が 50%以上の場合には 15、50%未満の場合には 8 とする。又は f₂関数の値は溶出率が 50%以上の場合には 50 以上、50%未満の場合には 55 以上である。

[pH5.0(100rpm)]

標準製剤が 15 分～30 分に平均 85%以上溶出する場合：標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f₂関数の値は 45 以上である。

上記の結果より、溶出条件それぞれについて、ガイドラインの溶出挙動の同等性の判定基準に適合した。

従って、エバスチン錠 10mg「トーワ」と標準製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能・効果

蕁麻疹
湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症
アレルギー性鼻炎

2. 用法・用量

通常、成人には、エバスチンとして1回5～10 mgを1日1回経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

エピナスチン塩酸塩、フェキソフェナジン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、ケトチフェンフマル酸塩、セチリジン塩酸塩、ロラタジン、オキサトミド、ベポタスチンベシル酸塩、アゼラスチン塩酸塩 等

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

H₁ 受容体に可逆的かつ競合的に結合し、ヒスタミンの作用を遮断する。中枢神経系への影響が少ない。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

(3) 臨床試験で確認された血中濃度の項を参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

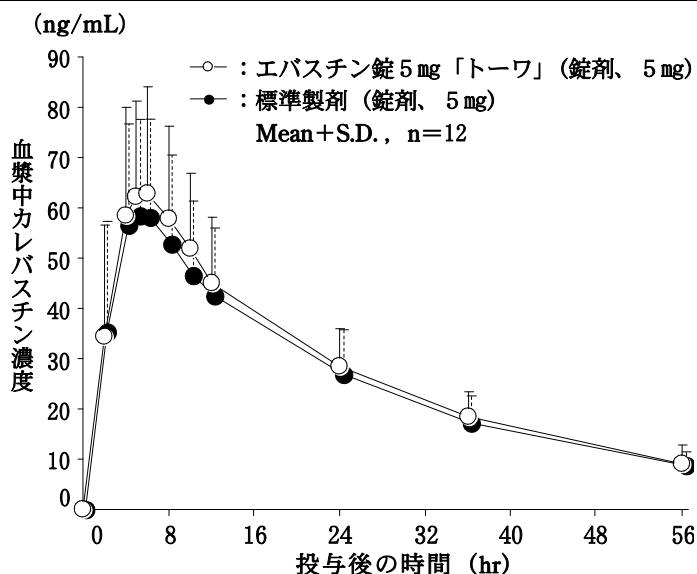
生物学的同等性試験

エバスチン錠 5mg 「トーワ」¹⁾

エバスチン錠 5mg 「トーワ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(エバスチンとして 5mg)健康成人男子(n=12)に絶食単回経口投与して代謝物であるカレバスチンの血漿中濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

試験方法

被験者数	健康成人男子 12 名を一群 6 名に無作為に割り付けた 2 剤 2 期クロスオーバー法
投与方法	前日より 10 時間以上絶食とし、翌朝エバスチン錠 5mg 「トーワ」、標準製剤共に 1 錠を 150mL の水と共に単回経口投与
投与量	1 錠(エバスチンとして 5mg)
採血時間	投与前、投与後 2 時間、4 時間、5 時間、6 時間、8 時間、10 時間、12 時間、24 時間、36 時間、56 時間(合計 11 時点)
休薬期間	第 I 期最終採血より 4 日間
分析法	血漿中カレバスチン(活性代謝物)濃度を液体クロマトグラフィー/タンデムマススペクトロメトリー(LC/MS/MS)で測定
食事	第 I 期、第 II 期は同一献立



薬物動態パラメータ

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₅₆ (ng·hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	T _{1/2} (hr)
エバスチン錠 5mg 「トーワ」 (錠剤、5 mg)	1574±452	65.17±20.85	5.3±0.8	19.63±3.25
標準製剤 (錠剤、5 mg)	1478±482	60.10±20.00	5.3±1.2	20.07±2.00

(Mean±S.D., n=12)

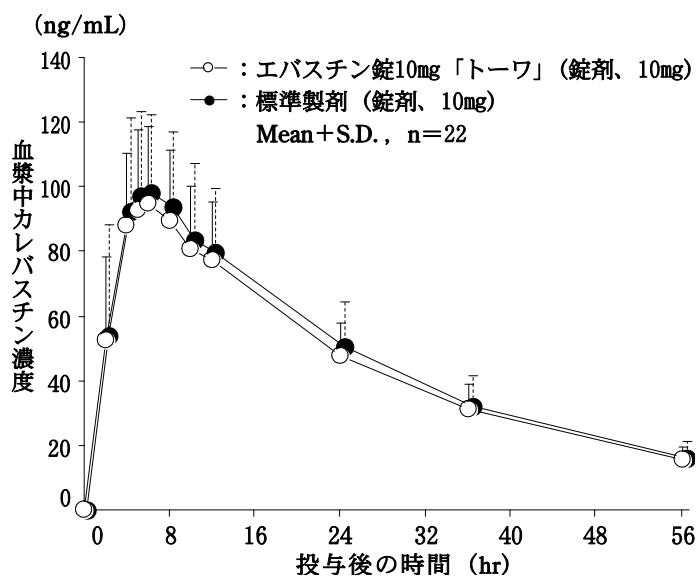
血漿中濃度並びに AUC、C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

エバスチン錠 10mg 「トーワ」¹¹⁾

エバスチン錠 10mg 「トーワ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠(エバスチンとして 10mg)健康成人男子(n=22)に絶食単回経口投与して代謝物であるカレバスチンの血漿中濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、C_{max})について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)~log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

試験方法

被験者数	健康成人男子 24 名を一群 12 名に無作為に割り付けた 2 剤 2 期クロスオーバー法 (2 名の脱落により、解析対象は 22 名)
投与方法	前日より 10 時間以上絶食とし、翌朝エバスチン錠 10mg 「トーワ」、標準製剤共に 1 錠を 150mL の水と共に単回経口投与
投与量	1 錠(エバスチンとして 10mg)
採血時間	投与前、投与後 2 時間、4 時間、5 時間、6 時間、8 時間、10 時間、12 時間、24 時間、36 時間、56 時間(合計 11 時点)
休薬期間	第 I 期最終採血より 4 日間
分析法	血漿中カレバスチン(活性代謝物)濃度を液体クロマトグラフィー/タンデムマスペクトロメトリー(LC/MS/MS)で測定
食事	第 I 期、第 II 期は同一献立



薬物動態パラメータ

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₅₆ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
エバスチン錠10mg「トーワ」 (錠剤、10mg)	2583±572	97.50±25.04	5.5±1.6	19.98±2.85
標準製剤 (錠剤、10mg)	2686±714	102.76±26.29	5.4±1.3	19.48±2.52

(Mean ± S.D., n=22)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数¹⁾

エバスチン錠 5mg 「トーワ」

kel : 0.03619±0.00584hr⁻¹(健康成人男子、絶食単回投与)

エバスチン錠 10mg 「トーワ」

kel : 0.03579±0.00678hr⁻¹(健康成人男子、絶食単回投与)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

VIII. 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与の項 2)を参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代 謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

本剤は、主として代謝酵素 CYP2J2 及び CYP3A4 で代謝される。

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排 泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

肝障害又はその既往歴のある患者 [肝機能異常があらわれるおそれがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- 1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転など危険を伴う機械の操作に注意させること。
- 2) 長期ステロイド療法を受けている患者で本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は、十分な管理下で徐々に行うこと。
- 3) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

7. 相互作用

本剤は、主として代謝酵素 CYP2J2 及び CYP3A4 で代謝される。

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン	エバスチン製剤の代謝物カレバスチンの血漿中濃度が約2倍に上昇することが報告されている。	カレバスチンの代謝が抑制されると考えられる。
イトラコナゾール	エバスチン製剤の代謝物カレバスチンの血漿中濃度が上昇することが報告されている。	
リファンピシン	エバスチン製剤の代謝物カレバスチンの血漿中濃度が低下することが報告されている。	カレバスチンの代謝が促進されると考えられる。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明）

- (1) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2) 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、LDH、 γ -GTP、Al-P、ビリルビンの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

重大な副作用（類薬）

類薬（テルフェナジン等）で、QT延長、心室性不整脈(Torsades de pointesを含む)があらわれるとの報告がある。

(3) その他の副作用

その他の副作用	
	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、浮腫、蕁麻疹
循環器	動悸、血圧上昇
精神神経系	眠気、けん怠感、頭痛、めまい、しびれ感、不眠
消化器	口渇、胃部不快感、嘔気・嘔吐、腹痛、鼻・口腔内乾燥、下痢、舌炎

肝臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、LDH 上昇、 γ-GTP 上昇、Al-P 上昇、ビリルビン上昇
泌尿器	排尿障害、頻尿
その他	好酸球増多、胸部圧迫感、ほてり、体重増加、月経異常、脱毛、味覚異常、 BUN 上昇、尿糖

注1)このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

添付文書より抜粋

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

重大な副作用（頻度不明）

(1) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

高齢者への投与

1日1回5mgから投与するなど注意すること。[一般に高齢者では生理機能が低下している。]

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- 2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

11. 小児等への投与

小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児又は幼児に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない)

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

臨床検査結果に及ぼす影響

本剤はアレルギー皮内反応を抑制するため、アレルギー皮内反応検査を実施する前は、本剤を投与しないこと。

13. 過量投与

該当しない

14. 適用上の注意

適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

15. その他の注意

該当しない

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

該当資料なし

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

該当しない

2. 有効期間又は使用期限

エバスチン錠 5mg「トーワ」

使用期限：3年(外箱に記載)

エバスチン錠 10mg「トーワ」

使用期限：4年(外箱に記載)

3. 貯法・保存条件

貯法：室温保存(開封後は湿気に注意)

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

VIII. 14. 適用上の注意の項を参照

(2) 薬剤交付時の取扱いについて

患者向け医薬品ガイド：無

くすりのしおり：有

その他の患者向け資材：無

(3) 調剤時の留意点について

VIII. 14. 適用上の注意の項を参照

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

製品名	包装形態	内容量(重量、容量又は個数等)
エバスチン錠 5mg「トーワ」	PTP包装	100錠
エバスチン錠 10mg「トーワ」	PTP包装	100錠、500錠

7. 容器の材質

製品名	包装形態	材質
エバスチン錠 5mg「トーワ」	PTP 包装	PTP : ポリプロピレン、アルミ箔
		ピロー : アルミ・ポリエチレンラミネート
エバスチン錠 10mg「トーワ」	PTP 包装	PTP : ポリプロピレン、アルミ箔
		ピロー : アルミ・ポリエチレンラミネート

8. 同一成分・同効薬

同一成分 : エバステル錠 5mg/10mg、エバステル OD 錠 5mg/10mg

同効薬 : ケトチフェンフマル酸塩、アゼラスチン塩酸塩、オキサトミド、セチリジン塩酸塩、フェキソフェナジン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、ベポタスチンベシル酸塩、ロラタジン 等

9. 国際誕生年月日

1996年1月1日

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号	備考
エバスチン錠 5mg「トーワ」	2008年3月14日	22000AMX00910000	
エバスチン錠 10mg「トーワ」	2008年3月14日	22000AMX00911000	

11. 薬価基準収載年月日

製品名	薬価基準収載年月日	備考
エバスチン錠 5mg「トーワ」	2008年7月4日	
エバスチン錠 10mg「トーワ」	2008年7月4日	

12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト 電算コード
エバスチン錠 5mg「トーワ」	118625301	4490019F1133	620007976
エバスチン錠 10mg「トーワ」	118632101	4490019F2130	620007989

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 東和薬品株式会社 社内資料：加速試験(錠 5mg)
- 2) 東和薬品株式会社 社内資料：加速試験(錠 10mg)
- 3) 東和薬品株式会社 社内資料：長期保存試験(錠 10mg)
- 4) 東和薬品株式会社 社内資料：無包装状態における安定性試験(錠 5mg)
- 5) 東和薬品株式会社 社内資料：無包装状態における安定性試験(錠 10mg)
- 6) 東和薬品株式会社 社内資料：分割後の安定性試験(錠 10mg)
- 7) 東和薬品株式会社 社内資料：製品試験；溶出試験(錠 5mg)
- 8) 東和薬品株式会社 社内資料：製品試験；溶出試験(錠 10mg)
- 9) 東和薬品株式会社 社内資料：生物学的同等性試験；溶出試験(錠 5mg)
- 10) 東和薬品株式会社 社内資料：生物学的同等性試験；溶出試験(錠 10mg)
- 11) 水山 和之ほか：新薬と臨床, 57(6), 261, 2008

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

X III . 備 考

その他の関連資料

東和薬品株式会社 製品情報ホームページ

<http://med.towayakuhin.co.jp/medical/product/index.php>



製造販売元

東和薬品株式会社

大阪府門真市新橋町2番11号